



早稲田大学教育総合研究所 教育最前線講演会シリーズ第37回

会場：早稲田大学早稲田キャンパス3号館405教室

方式：ハイフレックス（対面・Zoomウェビナー併用）

対面参加：会場に直接お越しください（事前登録不要）

オンライン参加：QRコードから参加登録をお願いします。

研究所HPからも申し込みできます。

(<https://www.waseda.jp/fedu/iase/>)



プログラム・登壇者

①早稲田が掲げた理想の教員像—高等師範部から教育学部へ—

湯川 次義 氏（早稲田大学 名誉教授／早稲田大学百五十年史
編纂専門委員）

②都立学校における教員の現状と教職大学院及び教職課程に 求める育成について

堀江 敏彦 氏（東京都立飛鳥高等学校 校長／稲教会会長）

③デジタル時代の私学での教員養成の在り方～オンライン教 育の新時代～

三尾 忠男 氏（早稲田大学教育・総合科学学術院 教授／教職
支援センター副センター長）

＊配慮が必要な方へ＊

文字・手話通訳、場内誘導、座席確保、お子様連れでの参加等について配
慮をご希望の方は、3週間前までにご希望の内容をお知らせください。
できる限りの対応を検討させていただきます。

私学の教員養成を探る

—早稲田大学一二〇年のあゆみと次世代への一歩—

12・16

土

13:30 - 17:00

お問い合わせ 早稲田大学教育総合研究所

Tel:03-5286-3838 E-mail: IASE@list.waseda.jp



私学の教員養成を探る

—早稲田大学 120 年のあゆみと次世代への一歩—

講演概要

近年、学校を取り巻く社会状況は急速に変容し続けており、教員に求められる資質・能力も年々多様化している。また、教員の労働環境の厳しさが社会的課題となり、教員志望者の減少も続くなど、学校はより一層苦しい立場に置かれてもいる。このような現状において、教職課程を設置する大学として、これまでの教員養成のあゆみを振り返り、併せて今後の教員や教員養成の在り方を模索することは重要な営みであるといえよう。

早稲田大学の教員養成の歴史をひもとけば、その前身たる東京専門学校が1899年に中等教員無試験検定による教員資格取り扱いの許可を受け、早稲田大学と校名変更後の1903年には高等師範部を設置して教員養成機能を拡充し、長らく教員の養成に取り組んできた。戦後は、高等師範部の伝統を受け継ぐ教育学部に教職課程が置かれ、全国各地で活躍する多数の教員を輩出している。折しも2023年は、本学が高等師範部を設置してから120周年の年にあたる。また、2027年には早稲田キャンパスに新9号館が建設され、教育環境のさらなる拡充がなされる予定である。

そこで、本講演会を通じて、早稲田大学ではいかなる理念を掲げて教員養成のあゆみを進めて来たのか、その歴史を検討するとともに、早稲田大学出身の教職員らの活躍の状況や、私学の教員養成への期待や要望を現職教員から伺う。そして、これらの歴史と現状をふまえつつ、オンライン教育の推進や、新たな教育環境における教職課程の取り組みなど、今後の私学における教員養成の在り方を探る機会としたい。

《プログラム》

日時:2023年12月16日(土) 13:30~17:00(予定)

開催方法:ハイフレックス(対面・Zoom ウェビナー併用)

講演:

1. 湯川 次義 氏 早稲田大学 名誉教授／早稲田大学百五十年史編纂専門委員
2. 堀江 敏彦 氏 東京都立飛鳥高等学校 校長／稲教会 会長
3. 三尾 忠男 氏 早稲田大学教育・総合科学学術院 教授／教職支援センター 副センター長

総合討論

開会挨拶 近藤 孝弘 (早稲田大学教育総合研究所 所長／教育・総合科学学術院 教授)

司会 野口 穂高 (早稲田大学教育総合研究所 副所長／教育・総合科学学術院 教授)

《各講演概要》

1. 早稲田が掲げた理想の教員像－高等師範部から教育学部へ－

湯川 次義 氏(早稲田大学 名誉教授/早稲田大学百五十年史編纂専門委員)

本講演では、早稲田大学が掲げた理想の教員像について、高等師範部創設に尽力した高田早苗の主張、さらには戦後に教育学部を設けた理念と教職課程の役割を中心に話したい。高田は、私学各校の「学風」による教員の育成を重視し、かつ教員は教科を「能く教へ」ることで任務が終わるのではなく、その使命は「人を造ること」にあると説いた。また、戦後の教員養成制度は大きく改革されたが、教育学部は憲法の精神を実現するための教育の重要性に基づいて新設され、「よき教育者」は「先ずよき学究の徒」であるべきとの理念が本大学の教員養成の伝統とされた。

2. 都立学校における教員の現状と教職大学院及び教職課程に求める育成について

堀江 敏彦 氏(東京都立飛鳥高等学校 校長/稲教会 会長)

都立高等学校における、新規採用をはじめとする稲門出身の教職員の現状について、私自身の勤務校である都立飛鳥高等学校に所属する、教務主任を務める主幹教諭及び総務国際交流部主任を務める主任教諭を例にあげて、教職員の活躍を紹介する。また、私たちが日々直面している課題に対して、自身の役割を理解しながら、中心となって解決に向けた取組を進めるために必要な対応力の育成を早稲田大学教職大学院にお願いしたいと考え、都立高等学校の現状についてお話しする。

3. デジタル時代の私学での教員養成の在り方～オンライン教育の新時代～

三尾 忠男 氏(早稲田大学教育・総合科学学術院 教授/教職支援センター副センター長)

学部教員養成の緻密化が進む一方、深刻な教員不足の状況改善の見通しはつかない。一方、Society5.0 に向けて急激なデジタルトランスフォーメーション(DX)が社会全体で進み、学びや学校の在り方に大きな変革が起きつつある。教育の情報化の変遷を振り返りつつ、近未来の学校、学びの在り方を大胆に予想し、私学としての教員養成の在り方の提案を試みる。